

川崎医大小児外科

ニュースレター No. 1

ごあいさつに代えて

川崎医科大学小児外科 植村貞繁



小児外科の医療について考えるときにいつも思うことがあります。それは私たち小児外科医の仕事はほとんどの場合、受け身であるということです。受け身というと消極的に聞こえるかも知れませんが、患者の受け入れの話です。すなわち、小児外科へ来る新患の患者さんのほとんどがいずれかの小児科医からの紹介です。患者さんが自ら小児外科の診療科を選んでくることはありません。たまに新患で紹介状がないと、つい嬉しくなって、「どうして小児外科に来たの？」などと変なことを聞いてしまいます。

話は変わりますが、私が以前勤務していた岩国医療センター（旧国立岩国病院）は山口県東部の基幹病院で、市民の最後の砦として、地域の医療を支え、信頼を得ています。そういった立派な病院ではありましたが、10年前に私がこの病院の小児外科に赴任したときには、正直心細い気持ちでした。通常、小児外科の診療科がそれなりに多くの患者を受け入れるとすれば、人口50万人は必要であると言われています。岩国市は山口県の東端にあり、人口が約10万人、周辺の地域を入れてもたかだか10数万人であり、そのような人口の少ない地域に小児外科の診療科が必要だろう

かとか、患者数もたかが知れているだろう、などと考えていたからです。最初の1年は案の定、暇でした。時間があると机の前に貼った山口県の地図を眺めながら、岩国の地政学的な運命を嘆いたものです。

しかし、幸いなことに地域の研究会や小児科医学会を通じて、山口県の小児科医の面識も広がり、多くの先生方の協力もいただいて、徐々に遠方からも患者さんが集まってくるようになりました。二人の小児外科医でやる分には予想した以上に多くの症例があったと思います。岩国での7年間で心から感じたことは、小児外科の患者は小児科医から紹介されてくる、ということです。

「小児外科医を育てるのは小児科医である」

これは私の恩師、前香川大学小児外科教授戸谷拓二先生の言葉です。

さて、3年前に川崎医科大学小児外科に赴任してきた時には、岩国と逆の感想でした。何故なら岩国とは違って、岡山県は人口200万人、岩国の20倍の大きさであります。小児外科医としてこれまで以上に働けるであろうと考えていました。しかし、赴任して3年経過しますが、岩国に居た時とあまり変わらないのが現状・・・いや、はっきり言ってこんなはずではない、人口比でみると症例が少ないのは何故だろう？何か悪い噂がたっているのだろうか？・・・などと、つまらないことをつい考えてしまいます。

そこで初心に戻って反省しました。やはり岡山の小児科の先生方と我々川崎医大の小児外科医と面識が少ないことが大きいのだろうと。確かに、山口県では頻りに小児関係の研究会があり、年に10数回そのような中で症例発表をしたり、話を聞いてもらえる機会がありましたが、こちらではそれに比べるとそのような機会は少ないように思います。いろいろ考えた末に、個人的にお話をする機会を増やすこと、このような手紙を書くことが必要だろうと考えました。

話題提供：「脱腸は自然に治るか？」

小児外科の手術の中で最も多いのが鼠径ヘルニアです。川崎医科大学小児外科でも年間に約80件のヘルニア関連手術があります。発症率が2 - 3%ですので、岡山県に生まれるこどもで推計すると年間500人程度が脱腸になると考えられます。さて、脱腸のため外来を受診した子の親から時々聞かれるのですが、「脱腸は大きくなれば治るのですか」というのです。果たして、これは正しいのでしょうか？

私たちはヘルニアの手術に腹腔鏡を使っており、腹腔内からヘルニアの形態自体を直接確認しております。そうすると、ヘルニアが非常に良くわかるのですが、このヘルニア嚢は腹膜と連続しており、ヘルニア門はたいがい大きく開いております。このような状態ですので、腹膜自体が自然に癒着して閉鎖するという事は考えられません。昔からヘルニアが手術せずに治ったという話は時々聞きますが、実はヘルニア嚢が自然閉鎖したと考えるより、ヘルニア嚢は残っても腸管が脱出しにくくなったと考えるべきでしょう。しかし、そのような人は成人した後にヘルニアがまた出る危険性もあります。

こどものヘルニアは以上の理由からも、また嵌頓の危険性もあるため、原則手術が必要であると考えます。手術をするなら是非、小児外科の専門医のいる病院を紹介して下さい。当然のこととは思いますが、小児の医療は小児専門の医師で行うべきであり、今の時代、成人外科にお世話になるべきではないと考えます。こどもにとって手術とは外科技術だけではなく、入院や手術全般にわたりこどもに優しい医療を考えるべきです。小児外科医はそのために研鑽を積んでおります。

これを読んでいただいた先生方には何卒ご理解賜りたいと存じます。

このニュースレターを読んでいただける小児科の先生方には、大変押しつけがましく、ご迷惑かとも思いますが、ここまで読んでいただき、ありがとうございます。兎に角、皆様に川崎医大小児外科のことを知っていただきたく、これからもこのようなニュースレターをお送りしたいと考えております。その中で、地域の小児科医と川崎医大の小児外科医の信頼関係が形成されることを期待しております。また、毎回、小児外科に関する新しい知見などもご紹介できると考えております。いつか、ご挨拶をさせていただく機会があるかと存じますが、その節はよろしく願い申し上げます。

今回は手紙形式で郵送させていただきました。メール形式での受け取りを希望される先生方は以下のアドレスにご連絡下さい。できるだけメール配信としたいと考えておりますので、ご協力よろしく願い申し上げます。もし、このニュースレターが御不要と言われる方もご連絡下さい。

uemura@med.kawasaki-m.ac.jp

また、患者さんのご紹介は緊急の場合、病院代表（086-462-1111）へお電話していただけるか、上記のアドレスへメールで紹介していただいても結構です。時間外、休日はon callが待機しておりますので、病院代表へご連絡下さい。



我が家の山茶花を撮りました（平成20年2月）